



公開講座開催



中国学園大学公開講座
2004「食生活の遺伝学」を平成16年9月25日と26日に開催しました。昨今の遺伝子研究の進歩に鑑み、栄養士および一般の方々へ遺伝学の理解を深めて頂こうと計画いたしました。27日午前中は講演

で、本学学生を含めて195名の出席があり、午後は遺伝子のDNAを目で見る実験を、26日午前は遺伝子増幅実験を行い、その間にミニ講演をし、実験実習参加者は25名でした。

講演1「遺伝子のしくみ-遺伝子の構造とはたらき-」は、遺伝子の構造と遺伝子の2つのはたらき、遺伝子を子孫へ伝えるはたらき(複製)と遺伝子から個体を作るはたらき(発生、発現)について、林英生教授が講演しました。

講演2「肥満・生活習慣病と遺伝」は肥満と糖尿病、高血圧、動脈硬化などについてその予防と対策について、西田典数助教授が講演しました。

実験実習はラット肝臓細胞からDNAを取り出す実験とその測定、およびヒトのアルコール代謝遺伝子の有無を遺伝子増幅法(PCR)で調べることを行いました。実習の合間にミニ講義「食物の遺伝子操作」を森脇晃義教授が行いました。



外部からの参加者は29名、栄養士15名、女性は25名で女性の向学心と元気がここでも実証されました。実習実験はμl やμg の少量を取り扱うので、苦勞があったようですが、全員熱心に楽しそうに実施されました。参加者の公開講座に対する総合評価は4.5(5段階評価)で、主催者・担当者とも好評であったと喜んでおります。

(人間栄養学科 教授 林 英生)

講演1:「遺伝子のしくみ-遺伝子の構造とはたらき-」

人間栄養学科 教授 林 英生



「遺伝」とはあらゆる生物が普遍的に共通した機構で行う生命現象です。その機構(方法・手段)が分子・物質のはたらきとして語られるようになりました。ヒトの遺伝子の全構造(ゲノム)が明らかにされつつありますが、遺伝子の基本的な構造はどんなものか、DNAの配列の特徴を知り、それが子孫に伝わる機構(系統発生)や個体が遺伝子情報に則り、受精から胎児・成人の個体となる(個体発生)分子機構について概観しました。生命の絆は数十億年をかけて世代から世代へ伝達され、その間に生物はゆっくり変化(進化)し、系統発生して今日の多種多様な生物種が生存するようになりました。生命・遺伝・系統発生・個体発生などの基本となる遺伝子の分子構造、転写・翻訳などの一般的な機構について概説しました。

講演2:「肥満・生活習慣病と遺伝」

人間栄養学科 助教授 西田典数

今回は生活習慣病、主に肥満(症)、高血圧症、糖尿病の遺伝につ

いて話をしました。これらの生活習慣病は多因子疾患であり、私達自身の生活習慣や環境要因と同様に、加齢や性差を含めた遺伝要因も深く関わっています。現在はまだ生活習慣病の遺伝子診断は一般的には行なわれていませんが、体質的にリスクがあると考えられる人は、より一層の生活習慣の適正化が必要になります。近い将来、健康栄養プログラム、予防栄養、個人栄養(指導)にこの遺伝子診断も合わせて活用される時が必ず来ると思います。



また人体にとって、とても重要な物質を分泌し「善と悪」の両面をもつ神秘的で「インテリジェント」な脂肪細胞についても話をしました。

健康に生き、そして出来るだけ「健康に老いる」ために、これからも私達皆が生活習慣を見直していくことが大切になっています。

ミニ講演:「食物の遺伝子操作-安全性と危険因子-」

人間栄養学科 教授 森脇晃義

食の安全について様々な懸念が広がっている。その中で、名称はしばしば報道に出てくるがその実体が理解されていない遺伝子操作食物あるいは遺伝子組み換え食物について、その開発の歴史、意図、方法、栽培されている作物、作物の安全性、さらに、新たな開発状況について解説した。



遺伝子を操作するという言葉の響きから、なにかとんでもない恐ろしいことをした作物と想像している人々が多い。導入する遺伝子や導入される植物、そして導入される遺伝子をもとに作られるタンパク質はすべてその性質がすでにわかっているものであり、その安全性は個別に確認されている。そして遺伝子組み換え作物は導入したタンパク質を一つ余計に発現している作物であって、むやみに危険な作物ではない。

最後に遺伝子組み換えダイズを使って作られた納豆を試食した。

栄養セミナー

今年度から4年一貫実施に



平成16年度入学生からチュートリアル「栄養セミナー」を4年一貫して実施することとなりました。目的は学生が少人数のグループ学習を通して、自主的に問題解決能力を養うことにあります。また、チューターと学生の交流を深め、個人の能力をより積極的に引き出すことも目指します。このコースで学ぶ知識と学習方法を、卒業研究へ展開するように計画されています。前期は一つの課題(パンとご飯、ヨーグルト、欠食と孤食、栄養と知能、ダイエットなど16課題)を選び、調べて期末に発表会(発表時間12分、討論3分)を行いました。調べ方はほとんどがインターネットによるもので、情報の確かさや原典・出典が検討されていない点に不満がありました。発表方法ではパワーポイントを使用して美しく発表したグループもありました。後期は「論文や文章を読んで内容を確実に理解し、要約できる力を養う」ことを目標にグループを再編して実施しています。学生がより積極的な学習姿勢となるように期待しています。

(人間栄養学科 教授 林 英生)

オープンキャンパス開催

大学生が準備から指導までを担当

平成16年度の4回のオープンキャンパスが学生、教職員の協力のもと無事終了しました。沖縄県、大分県、四国、山陰、近畿、静岡県など遠方からの参加もありました。今年度から講義の「管理栄養士について」が全員受講に、体験授業（細胞・細菌を顕微鏡で観よう、ビタミンCの測定、基礎代謝の測定など）、個別相談が全て参加可能になりました。



調理実習や健康測定・展示コーナーも準備を含めて学生参加、指導のもと大変好評でした。レシピなどを記入した手作りのリーフレットを直前まで懸命に作成する姿が印象的でした。座談会でも学生が率先して迎え入れ、アンケートでも学生の親切な対応への感謝の言葉が一番多かったです。



来年度は初めて4年生までの全学年が揃い、更に充実した内容で来校者を迎えることができると思います。

(人間栄養学科 助教授 西田典教)

臨地実習

一期生の「臨地実習」4単位分終了

管理栄養士の業務内容を学外の各施設で学習する「臨地実習」をどう無事に乗り切るかは、「管理栄養士国家試験」合格率に次ぐ問題点と認識して設立時から取り組んできた。というのは、本学の管理栄養士課程が初めて学外から評価される機会となるからである。

そこで、2年生後期定期試験終了後から実習のための事前学習を始め、4月からは毎週あらゆる機会を通して学習を続け、意識を高めることに指導者達は務めてきた。学生達もそれをよく理解し、夏休みも返上して事前学習に励み、9月から10月にかけて各実習施設で4週間4単位分の実習を終えた。毎週台風に見舞われたが事故もなく無事終了したことを喜びながら、目下まとめに追われている。詳しい報告は次号に回す。

(人間栄養学科 教授 菅 淑江)

海外研修旅行

イタリア・フランスへ 春休みに実施(3年生対象)

短大時代から、栄養士として広い視野と深い教養を身につけるために行われていた海外研修旅行を4年制大学でも受け継ぐことになりました。来春3月6日から9日間の予定で、第1期生の希望者約20名がイタリア、フランスに出かけます。イタリアではメディチ家の別荘でフランス料理の起源であるトスカーナ料理の講習や有名なレストラン「デルフィナ」でのスロー・フードの体験、イタリア菓子のビスコッティ(カントゥッチ)の老舗でその製造行程を見学し、さらにフィレンツェではまる1日華麗なルネサンスの美に浸ります。フランスでは国立食品・農業専門学校の見学・受講があり、さらに欧州最大の食品流通機構であるランジスの市場を見学します。勿論、パリでもルーブル、ノートルダム寺院、ベルサイユなど個人の自由な研修のための1日が組まれています。



(人間栄養学科 教授 上島孝久)

管理栄養士国家試験準備講習会

10月31日から、本大学の前身である中国短期大学時代の卒業生を対象に講習会を開始しています。



来年度は旧法最後の試験で、平成17年3月27日に実施されます。講習会の内容は基礎となる生化学、解剖生理学、病理学の時間を多くしています。また、合格者の方からの体験談や合格者を囲んでの座談会を機に日々の学習の意欲が増すような企画を取り入れています。できるだけ多くの方に参加していただき、たくさんの方に合格していただきますようお願いしております。

(人間栄養学科 講師 川上祐子)

センター試験・リスニング試行

2006年度本番に向けて、高校2年生が受験



平成18年度の大学入試センター試験から導入される英語リスニングの試行テストが、初めての受験生となる高校2年生の中から抽選で選ばれた生徒を対象に、9月26日(日)全国で行われました。中国学園大学では48名が試行テストに取り組みました。

リスニングテストは30分間で、巻き戻しのできない特製のICプレーヤーとヘッドホンを使用しました。開始前には、機器の使い方の説明や、受験

生が持っている携帯電話の電源が切れていることを監督者が確認して周るなどの、これまでのセンター試験にはなかった初めての試みがありました。無事に試行を終えることができました。

(人間栄養学科 助教授 嶋田義弘)

受験生の皆さんへ

推薦選考・一般選考・特別選考について

中国学園大学では、受験生の便宜を図りながら大学が求める人材を見出すために、多様な入試方法(推薦入試、一般選考、センター試験利用選考、社会人・帰国子女選考など)を用意しております。自分に合った方法で受験して下さい。

本年度の入学選考スケジュール

◆推薦選考(平成16年)

区分	出願期間	選考日	場所	合格発表
自己Ⅰ期	10/18(月)~10/25(月)	11/ 2(火)	本学	11/ 9(火)
公募Ⅰ期	10/18(月)~10/25(月)	11/ 2(火)		11/ 9(火)
指定校	10/20(水)~10/27(水)	11/ 7(日)		11/12(金)
公募Ⅱ期	11/11(木)~11/18(木)	11/27(土)		12/ 3(金)
自己Ⅱ期	11/25(木)~12/ 3(金)	12/11(土)		12/16(木)

◆一般選考(平成17年)

区分	出願期間	選考日	場所	合格発表
A日程	1/12(水)~1/20(木)	2/ 1(火)	(注1)	2/ 8(火)
B日程	2/ 9(水)~2/17(木)	2/24(木)	本学	3/ 2(水)
C日程	3/ 3(木)~3/10(木)	3/16(水)		3/18(金)
センター試験利用選考				
前期	2/ 9(水)~2/17(木)	/	(注2)	3/ 2(水)
後期	3/ 3(木)~3/10(木)			3/18(金)
社会人・帰国子女選考				
前期	10/18(月)~10/25(月)	11/ 2(火)	本学	11/ 9(火)
後期	11/11(木)~11/18(木)	11/27(土)		12/ 3(金)

(注1)本学、米子、松山、高知 (注2)個別学力試験は課さない。